

# 高校の教材にとりあげ られている古典資料

本日は、オープンキャンパスへようこそ。皆さんが、古典の授業などで一度は読んだことのある作品を、実践女子大学図書館が所蔵する古典籍のコレクションより選んでみました。時代を経て今に伝えられてきた、本物の資料に触れてみてください。

枕草子 平安時代の随筆 作者は、清原元輔の娘・清少納言。長徳から長保（995～1002）頃成立したものと考えられる。書名の由来は、跋文において中宮定子の問いかけに対して「枕にこそははべらめ」と答えたことによるが、その意味するところは諸説あってあきらかではない。

## 【本学所蔵資料】

1. 枕草子 古活字本 5冊 27.7×19cm 13行 無刊期 [寛永中期頃] (黒川 148)
2. 枕草子 写本 2冊(上下) 26.8×19cm 10行 奥書に「這本以後光厳院宸翰不違一字書写功了 云々」 朱書入 (黒川 149)
3. 枕草紙 写本 2冊(上下) 27.4×19cm 13行 奥書無し 見返しに「本書近衛植家公息女慶福院殿筆」 外題「清少納言枕草紙」(黒川 150)

徒然草 鎌倉時代の随筆 著者は兼好法師。「吉田兼好」は俗称。全編を243章に分断して読むことが通例化している。『徒然草』の成立に関しては、不分明な点が多く、その書名が兼好自身の命名であるかどうかも定かではない。成立年代についてはいまだ定説はないが、元徳2年(1330)から元弘元年(1331)までには主要部が成立していたらしい。

## 【本学所蔵資料】

4. つれづれ草 写本 3冊(上中下) 23.6×17.5cm 10行 奥書無し [寛文頃写] 奈良絵風挿絵 綴帖装 (常磐松 金庫本)
5. 徒然草 写本 1冊(上巻) 27.7×18.3cm 10行 奥書・内題無し [室町期] 金泥草花人馬絵表紙 料紙同 綴帖装 上巻「薬師あつしげ」の段まで (常磐松 金庫本)

伊勢物語 平安時代の歌物語 「在五中将の日記」「在五が物語」などの別称もある。「伊勢物語」という一般的な名称の由来は、諸説があって明らかではない。複雑な成立過程を経てほぼ平安前期（十世紀前半頃）に成立したものと考えられる。

125の章段からなり、物語展開の重要な位置に和歌がある。多くの章段が「むかし 男」で始まる。

【本学所蔵資料】

6. 伊勢物語 古写本 伝一条房冬筆 1冊 26.2×21.5cm 12行 [室町末期]  
表紙：桃実紗綾形織文 見返し：金泥松葉（常磐松 20A）
7. 伊勢物語 刊本 3冊 26.1×18.1cm 名古屋 美濃屋伊六 文政8（1825）年  
題簽：伊勢物語図絵（常磐松 20A）
8. 伊勢物語 刊本 2冊（上下） 25.8×19cm 慶長14（1609）年 角倉本 絵入  
（黒川 4）

源氏物語 平安時代の物語 『源氏物語』は、「桐壺」の巻に始まり「夢の浮橋」に終わる54帖（巻）から成り立っている。作者は、紫式部といわれている。物語の成立時期は、確定しがたいが11世紀初頭と推定される。

【本学所蔵資料】

9. 源氏物語 写本 54冊 27.4×20.1cm 10行 奥書無 萩原広道朱注  
（常磐松 20A）

源氏物語絵巻 物語絵巻 紙本着色。作者未詳。詞書料紙の装飾法、絵の様式、詞書書風から、平安時代末期の制作とみなされる。『源氏物語』の各帖から一ないし三場面程度を選び絵画化し、詞書をつけた美しい絵巻。本来は、五十四帖全体に亘ったものと考えられるが、現存しているのは、蓬生・関屋・絵合（詞のみ）・柏木一～三・横笛・竹河一～二・橋姫・早蕨・宿木一～三・東屋一～二・（以上愛知・徳川美術館蔵）鈴虫一～二・夕霧・御法（以上東京・五島美術館）の二十段分と諸家に分蔵される断簡がある。

【本学所蔵資料】

10. 国宝 源氏物語絵巻 複製版 川面義雄制作 額面装（詞37枚、絵19枚）昭和38年  
（1963）
11. 国宝 源氏物語絵巻 復元版 徳川黎明会、五島美術館編 軸装4巻 昭和42年（1967）